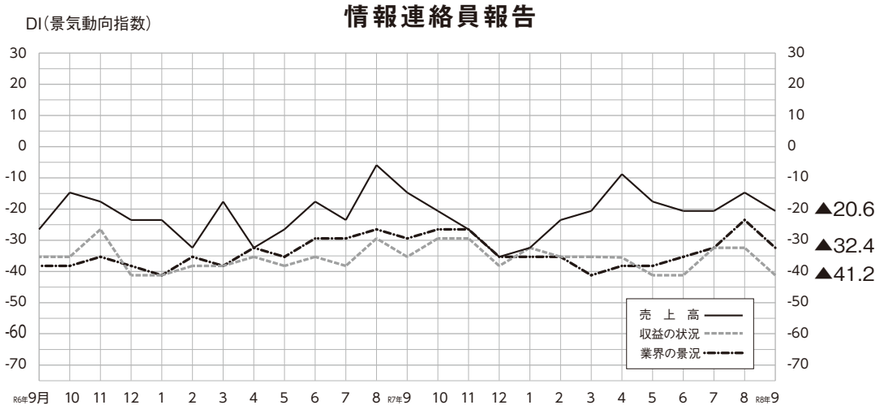
情報連絡員報告を中心とした 県内各業界の動向

2026年9月
（前年同月比）

情報連絡員報告



業界の状況

…好転

…不変

…悪化

なし

	食品団地	夏季需要が一服し、前月に比べ売上を落としている事業者がある。また、人手不足のため、こうした需要にも十分に対応できず、売上が伸び悩んでいる事業者も見られる。9月の景況感としては、全体的にはあまり変化が見られず、横ばいか、やや下降気味で推移している。秋の行楽シーズンが到来することから、より一層の観光需要に期待している。先行きについては、コスト上昇と価格転嫁の動向や、最低賃金アップに伴う賃金の状況への注視が必要。
	酒類製造	原料米については、主食用米の価格下落が続く中、来年度に向けた酒米の生産や供給体制への影響について、引き続き動向を注視していく必要がある。販売面では、現時点で大きな変動はなく、概ね前年並みで推移している。物価上昇に伴う消費者の購買動向への影響など、依然として厳しい環境が続いている一方、輸出は堅調に推移している。
	テントシート	原材料価格の高騰分について、販売価格へと転嫁が出来つつあると思われていたが、中東情勢により、6月1日から原油・ナフサ価格の上昇および石油化学製品の供給環境が悪化した影響で、全製品の大幅な価格改定（15%～25%）があった（品薄状態もしばらく続きそうである）。販売価格への転嫁にも厳しい状況が続くと思われる。
	木製品素材生産	9月期の原木出荷量は連休と天候不良もあり、多少減少気味となっている。丸太価格については下げ止まり状態から多少上向きになってきているが、全体的にはほぼ横ばいで推移。10月に入ってからは天候も落ち着いてきており、原木出材量は増加が予想される。また、丸太価格についても、秋需要を迎え、下げ止まり状態から良くなってくると思われる。しかしながら、製品の値動きが心配されるところである。
	建具	店舗向けのやや大きい現場があった。個人向けには住宅リフォームの小さい現場が多い。建具金物の真中製品が非常に値上がりした。
	製紙（家庭紙）	紙製品全体として、販売金額、生産量及び販売量は前月に続き前年同月比で増加した。また、品目別では、雑種紙において、前年同月比で販売金額、生産量及び販売量ともに増加した。衛生用紙は、販売金額及び販売量は前年同月比で減少したが、生産量はほぼ前年並みとなった。
	製紙（手すき和紙）	和紙全体として前年同月の売上は横ばいであるが、動きが鈍く先行きは依然として不透明な状況。
	印刷	久しぶりに売上、操業度ともに昨年を上回る。県内需要はよさこい文化祭の特需と用紙等の値上げの影響もありユーザーからの仮需があった。また、県外需要も比較的好調だったもよう。
	コンクリート製品	対前年同月比153.0%と、前年度より出荷量が多くなっている。本年度の公共事業費は横ばいであることから、組合員の増加に伴う影響と分析している。
	刃物製造	9月は県内への卸販売は低調で、昨年度より大きく下回ってしまった。その反面、県外への販売、小売販売は昨年を上回り、総合的にはほぼ昨年と同じである。
	機械団地	原材料高や人手不足などのマイナス要因が継続するなか、団地内の業況に特段の好材料はなく、足踏みの状態が続いている。
	船舶製造	9月は製品の出荷が無かったため売上が減少した。千葉県の水害の影響により、鋼板（耐摩耗）の生産が止まっているようである。長期化するようであれば代替品が必要となるが、価格が高いようである。また、副資材、油脂類も値上がりするという予測がある。
	珊瑚装飾品製造	9月度の取引額は、前年同月比で84%となり、4カ月連続で前年を下回った。

	青果卸売	9月の取扱高は組合員全体で前年対比104.5%となった。5カ月連続で前年を上回ったが、相場高騰による影響が大きかった。今年の1月から9月までの累計でも101.5%に上昇したが、各社のばらつきも見られる。品物も増える10月に期待。
	生鮮魚介卸売	9月はカツオが順調に入荷し、売上額は増加した。カツオ以外の魚種・量ともに少なくなってきた。
	各種小売（四万十町）	特段の動きなし。嬉しい知らせでもあればいいのだが、特にない。今年は季節外れの長雨で米の出来が悪いという話をよく聞く。日本カードに確認したところ、現在しばてんカード（協）が使用しているＶ２端末は、最新のＶ３端末と混ぜての稼働ができるもよう。ただし高価なため、依然として組合の状況は厳しい。
	中古自動車小売	全体の流通量も増加し、高年式車両など幅広い年式、車種が揃っている。需要が高い高年式車両は、相場が高止まりではあるが、良質車両が多く仕入れしやすい。普通車、軽自動車ともに高年式車両に販売が集中している。
	商店街（高知市）	人流カメラによる集計では、2026年9月の来街者数は5地点すべてで前年同月を上回り、特に大橋通り商店街は22%増、帯屋町一丁目商店街は14.7%増、帯屋町壱番街商店街は13.6%増と大きく伸びた。9月20日の「高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2026」では、前年の同イベント開催日と比べて全地点で人流が増加し、特に大橋通りへの波及が目立った。また、9月26日・27日の「高知大道芸フェス2026」は、5地点合計で前年同イベント比1.7%増となり、商店街4地点で前年を上回った。さらに、9月27日はクルーズ船2隻の寄港やイベントが重なり、商店街各所で大きな伸びが見られた。9月29日のダイヤモンド・プリンセス寄港日にも複数地点で増加しており、イベントと観光客の街なか回遊が月全体の人流増加を後押しした。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比89%。全旅クーポン合算後、前年対比84%。
	IT事業	今月の売上は前月よりも下がり、例年と比較すると3カ月連続で低い状態が続いている。例年、年末に向けて需要が拡大し、売上高も伸びていく傾向にあるため、年末にかけての新規受注に期待したい。
	一般土木建築工事	工事の発注数は例年通りであるが、資材の価格高騰により収益率が悪化してきている。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事量は、前年同月比210%となった。香長地区が57%となったものの、高知中央地区が270%と大幅に増加した。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入：102.6%、回数：104.6%、実働率：49.4%。相変わらず高知新港に大型客船が寄港しており、タクシーの需要がかなりあるのに車が足りず、ずいぶんお客様にご迷惑をおかけしている。客船寄港の際の需要が収入に寄与している。

	製材	資材価格や物流コスト等の上昇により、収益確保が更に厳しくなっているとの声が多い。
	生コンクリート製造	9月度単月の組合員工場の出荷量は対前年比86.6%、4月からの累計出荷量は87.9%と、単月は減少しているが、累計出荷量は前月と概ね横ばい傾向であった。地域的には、中部、高幡地区の減少傾向が続いている。
	卸団地	今年のシルバーウイークは、暦の上で大型連休となり、天候もそこそこであったため昨年より観光、外食関係の売上は好調であった様子。しかし物価高の影響により、利益が大きく出ているとは言い難い状況である。仕入商品の値上げが続いている。業界全般に景気好転は見られない。
	電気機械器具小売	9月度は全商品平均で前年比94%、4K8Kテレビ前年比88%、スタンダードプランエアコン前年比105%、白物家電前年比92%、リフォーム全般で前年比95%であった。
	ガソリンスタンド	イランが米国に対して海上封鎖の解除など7つの条件を提示した一方、米国はこの受入れを拒否したことが相場を押し上げたが、制裁緩和や凍結資金の開放する用意があると報道されたことが上がり値を圧迫することとなった。9月の仕切り価格は18.5円／Lの値上げだが、政府の補助金により市況はほとんど変動はない。9月末現在の政府の補助金合計は50.7円／Lと、大きな金額のままである。
	商店街（安芸市）	10月25日（日）開催の商い甲子園への出場チームが決定し、店舗位置を決める「店舗抽選会」が行われた。今年の出場数は、11校20チームに加え石川県輪島高校を特別招待。高知県立室戸高等学校と徳島県立小松島西高等学校が初出場。
	商店街（四万十市）	人通りは少なく、ますますの景気の落ち込みを感じる。8月20日には四万十よさこいが開催され、大いに街を賑やかにしてくれた。かなりの経済効果があったと思う。気持ちを明るくすることは頑張ろうという気持ちにも繋がり、街全体・商店街にとっても良いイベントだと思う。
	旅館・ホテル	前年に比べてやや低調となった。下期の行楽シーズンの受注状況は順調。
	飲食店	9月はシルバーウイークに多くの人の動きがあり集客は前年度を上回った。特に高知市中心街や観光地が好調だった。当然、売上高も前年同月と比べ増加しているが、物価高に対して業界の価格転嫁力は弱く、売上を圧迫している。集客、売上ともに好調でも業界の景況は悪化している。前年度同月に比べ更に物価は高騰。光熱費、仕入れ価格、人件費、すべての経費が上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	秋冬の衣替え前の時期であり、需要は少ない時期だが、物価高や天候の影響か、減少傾向が続いている。対して石油系溶剤、灯油などエネルギー価格は上昇しており、経費は高止まっている。人手不足も深刻。ホームクリーニングの事業所数及び店舗数は徐々に減少しており、県内でクリーニング空白地区がさらに広まっていく傾向にある。リネン・ユニフォーム関連は堅調。
	一般貨物自動車運送	燃料価格は石油製品自体が週決めで後半高騰したが、政府補助金の大幅増額により１カ月平均で実質前月価格と同等となった。荷動きが９月になっても鈍いうえに、台風等の災害の影響が心配される。